

国際歯科連盟学会(2014年9月11日～14日開催)インド、デリーにて

抗ジンジパイン鶏卵抗体(IgY)：歯周炎に対する新しい補助的免疫療法

ラハマン・ショフィクル、ヌグエン・バン・サー

要旨：

研究目的：本研究では歯周病患者においてスケーリング・ルートプレーニング(SRP)の補助としての抗ジンジパリス菌ジンジパイン鶏卵抗体(IgY-GP)の効果を評価することを目的とした。

研究方法：IgY-GPはジンジパリス菌 ATCC 33277 株より抽出されたジンジパインを産卵鶏に免疫することで作成された。IgY-GPの効果を評価するためにボランティアによる試験を二回行った。初回試験は無作為化した二重盲検のプラセボ対照の試験で、42人の患者が無作為に口腔内全域SRPとIgY-GPの経口投与か、SRPとプラセボの経口投与のいずれかを割り当てられた。BOP値、プロービング値といった臨床測定を基準値、治療の4週間後、12週間後にそれぞれ記録した。二番目の試験では5人の歯肉菌叢中にジンジパリス菌数の高い歯周病患者の歯周ポケットに直接IgY-GP入りの軟膏を塗布し、BOP値、プロービング値測定と共に菌数測定を基準値と4週間後にそれぞれ行った。

結果：どちらの試験もIgY-GP使用群では治療の4週間後、12週間後に平均BOP値、プロービング値において大幅な改善がみられた。臨床変化に並行して、IgY-GP投与は深度の高い歯周ポケット内のジンジパリス菌数を大幅に減少させた。

結論：歯周病患者においてSRPに合わせたIgY-GPの併用は臨床および菌数測定においてプラセボ群と比べ、大幅に改善したという結果になった。IgY-GPは歯周病患者において効果的な補助免疫療法になりえる。